



移住を考えている家族に、阿波地域の概要や暮らしについて説明する田崎さん（左から2人目）

インタビュー 新たな視点で 地域づくりに参画

人口が減少する一方で、住民を勇気付ける動きも見え始めています。近年、中山間地域に移住する人や移住を考えている人が増えてきています。そのうち、千葉県から家族4人で阿波地域へ移住した田崎英里さんにお話を伺いました。

自然豊かな阿波への移住を決断

平成24年2月、千葉県から阿波地域へ移住した田崎英里さん。夫と子ども2人の4人家族です。

「移住のきっかけは、福島第一原子力発電所の事故です。事故から1年間、夫婦で悩んだ末に移住を決断しました。自然災害が少ない岡山県を、10日間掛けて見て回り、清流があり、空気がきれいな阿波地域に移住の地を選びました。有機無農薬栽培をしている農家があることも魅力でした」と当時を振り返ります。

人とのつながりを大切に して地域づくりに参画

移住後、田崎さんは、推進協議会の一員となり、地域ブランドや村づくりの役割を担うようになりました。

住民による手作りのイベント「阿波まるごとかじり市」を中心になって企画し、地元産物の販売やバザーなど

阿波の良さを伝えていきたい

田崎さんは、こうした動きに積極的に関わっています。「わたしたちが移住して来てから、関東地方から移住を検

討している8組の家族が、阿波を訪ねて来ました。こうした人たちに、豊かな自然の中で生活できるすばらしさや、人と人とのつながりが強く、助け合いの心が根付いていることなど、わたしが感じている阿波ならではの良さを伝えていきます。これからは、移住を考えている人のお手伝いをしていきたいですね」と話してくれました。



阿波まるごとかじり市

ひとこと



山がきれいになります

山林所有者
佐々木 操さん

間伐材を放置していると山は荒れてしまいます。間伐材を利用することで山がきれいになります。これもび券で、買い物をしたり、あば温泉に行ったりしています。わたしの山の間伐材で沸かした温泉の湯につかるのは格別です。これからも、皆さんと協力しながら、できるだけ頑張ります。



活動3 木質バイオマスの地産地消 間伐材を燃料に 木の駅プロジェクト

切り捨てられていた間伐材を資源として地域で生かす



木材は阿波地域の大切な資源。周囲を山に囲まれた阿波地域。地域の94パーセントを山林が占め、そのうち、スギやヒノキの人工林は約80パーセント。木材は阿波地域にとって、大切な資源です。木材の価格が下落しているため、間伐した木の多くは山に放置されてきました。推進

協議会は、ここに着目しました。これらを資源として活用できれば、山の荒廃を防止する効果も見込めます。そこで、間伐材を集めて破砕処理し、地元で消費する仕組み・木の駅プロジェクトが立ち上がりました。10月、15人の山林所有者に

「山に放置された間伐材が商品に生まれ変わる」

エリア拡大と新商品の販売をめざす

木の駅プロジェクトは、昨年からの社会実験として取り組みを始め、来年度からは、本格的に実施する予定です。推進協議会では、間伐材を

持ち込める地域を阿波地域外にまで拡大して集荷量を増やし、一般家庭向けの薪に加工して販売することも検討しています。間伐材を生かす推進協議会の取り組みが、少しずつ広がりをを見せています。

間伐材が燃料になるまで

1 山仕事
間伐材を約2mに切り、軽トラックに積み込みます



2 集積作業
集積場に集め、チップに合う大きさの薪にします



3 破砕作業
薪にした間伐材をチップパーで破砕処理します



4 チップの完成
あば温泉のボイラーの燃料として使われます

